

## 事例 西表島で外来植物の駆除活動 ～NPO法人西表島エコツーリズム協会との協働（日本製紙）

当社は、2017年8月に林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署と協定を締結し、西表島の国有林約9ヘクタールで、西表島の自然や伝統文化を保全・継承するための活動を行っている「NPO法人西表島エコツーリズム協会」との協働により、外来植物の駆除などの森林保全活動を行っています。

西表島には日本最大規模のマングローブ林や亜熱帯性の広葉樹林などで構成される森林が広がり、国の特別天然記念物のイリオモテヤマネコ（絶滅危惧ⅠA類）をはじめとする貴重な野生動植物が生育・生息しています。

しかし、多数の外来植物が広域に侵入していることが確認されています。当社は、西表島で地元の方々と一緒に外来種であるアメリカハマグルマ<sup>※</sup>の駆除活動を行うとともに、再生状況の調査を継続して実施しています。

<sup>※</sup>アメリカ大陸原産のキク科の植物で、法面などの緑化用として沖縄県内各地に導入された。繁殖力が旺盛で、生態系への影響が懸念されている。



駆除したアメリカハマグルマ

参考：日本製紙グループESGデータブック2022 環境に関わる責任

[https://www.nipponpapergroup.com/csr/npg\\_esgdb2022\\_environment.pdf](https://www.nipponpapergroup.com/csr/npg_esgdb2022_environment.pdf)